

シラバス作成ガイドライン

1. はじめに

札幌医科大学医学部では、建学の精神に基づきディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）を定めて体系的な医学教育が行われています。シラバスには授業を通して求められる資質と能力を身につけるために、授業の目的と到達目標、授業の計画・内容、成績評価の方法ならびに評価基準に関する事項等、教科に関する情報が記載されています。

学生はシラバスをよく読んで授業の内容や方針を理解し、記載されている注意事項を遵守することが期待されます。一方で教員には、授業の最初にシラバスの内容を改めて説明し、授業への適切な参加態度等、学生へメッセージを伝えることが望まれます。授業の目的と到達目標、カリキュラム・マップに対応する項目等、授業の根幹に大きく関わる基本的な事項を変更する場合には、事前に学生へ事情を説明し、十分に周知する必要があります。

このようにディプロマ・ポリシーを実現する体系的な医学教育を推進するため、シラバスは重要な役割を果たします。シラバスは今後広く公開する予定となっており、本学の授業内容について、学生のみならず、受験生や他大学の教育関係者等から関心が寄せられることも考えられます。このため、シラバスの作成には細心の注意を払うようお願い致します。

2. シラバスの記入項目

(1) 科目名

既に定められた科目名を記入してください。

(2) 科目区分

講義、実験、演習の区分を記入してください。

(3) 学年及び単位数

履修学年、単位数を記入してください。

(4) 科目コーディネーター

科目コーディネーターを記入してください。

(5) 所属

科目コーディネーターの所属を記入してください。

(6) 授業科目の学修教育目標

授業科目の学修教育目標（到達目標）は、学生が科目を履修するうえでどのような能力を身につけるためのものなのかを理解する材料となります。対応している医学教育モデルコア・カリキュラムの項目を参考に、学修の結果として何ができるようになるかを表す動詞を含む文章で記載してください。例えば「〇〇できる」という表現を用い、学生が主語となる文章を箇条書きで列記します。

主として以下の点にご留意ください。

- a. 授業を履修することで最低限身につけるべき資質が学修教育目標となります。
- b. 学修教育目標は、学習効果の具体的なイメージを抱きやすいような表現で記載します。
- c. 一つの文には一つの学修教育目標を記載し、複数の目標にならないようにします。
- d. 可能な限り「〇〇を理解する」等の概念的な表現ではなく、「〇〇できる」等の観察が可能な行動を示す言葉で表現します。

(7) 授業の概要および学修上の助言

授業の概要にはこの授業がなぜ必要かが明確となるように、授業の意義や、医学部のカリキュラム全体における位置づけがわかるように考慮してください。その授業をまだ履修していない学生に示すものですから、どのような授業を行うのか、わかりやすい文で具体的に書きます。必要であれば他の授業科目との関連性を書くことも有効です。

(8) 回数、学修主題、学修内容、教員氏名、所属、常or非

授業の回に応じて記載してください。学修主題には授業科目のテーマを、学修内容にはそのテーマの内容について記載します。教員氏名の欄には実際に担当する教員名を記入し、所属の欄には教員の所属を記入します。非常勤講師の場合は所属機関を記入します。また常or非の欄には、常勤の場合は空欄、非常勤講師の場合に非常勤と記してください。

(9) 評価方法

学修成果を厳格かつ適正に評価するための方法を明記し、成績評価の基準を数値で示します（例：小テスト25%、レポート25%、本試験50%等）。令和2年度から「評価結果に対する疑義申し立て制度」の導入が予定されており、シラバスで明示された評価方法に基づく成績がこの対象となります。また再試験の回数の明記もお願いします（最大で2回まで）。

(10) 自己学修（事前・事後）の内容と分量

授業前後の自己学修（予習と復習）の内容と分量を記入します。1単位の授業科目は、自己学修を含めた一定時間の学修を必要とする内容をもって構成するため、自己学修に関する適切な指示が必要となります。

(11) 出席確認方法

出席確認方法について、記入してください。

(12) 注意事項

特に学生に伝えるべき注意事項がある場合に記入してください。

例：遅刻～回で欠席1回とする、～分以上の中抜けは欠席とみなす、第～回の講義に関しては内容が変更になる可能性がある等。

定期試験の実施にあたり、必要に応じて、再試験の受験資格を得るために必要な本試験の最低点数を設定してください。（必須ではありません。科目において必要がない場合は設定不要ですので、従来どおり、本試験の点数に関わらず対象者全員に再試験を受験させてください。）

【上記を設定する場合】

- ・シラバスの注意事項欄に明記するとともに、初回の授業等において対象となる学生全員に周知してください。

シラバス記載例：定期試験の得点が4割未満の場合は再試験の対象とならないので注意すること（定期試験の成績のみで不合格が確定となる）。

- ・最低点数の設定にあたっては、試験の難易度や過去の成績分布等の根拠に基づき、適正な点数を設定してください。
- ・成績評価にあたっては、評価基準を明確にするとともに、評価の根拠を十分に準備し、適正な評価をおこなってください。

(13) 教科書・参考書

教科書を使用するかどうか、使用する場合は書名、著者名、出版社、出版年を記入します。教科書や参考書の使用方法については明確にしておく必要があります。